

博物館
topics

那覇市歴史博物館企画展
「戦前の沖縄観光 ～ディスカバー・オキナワ～」

毎年50万人余りの観光客が沖縄県にやってくる。そのほとんどが空路による沖縄入りです。一方近年、若狭沖に大型船用バースが整備され、クルーズ船により沖縄を訪れる人も増えています。

かつての沖縄では、琉球王国時代から復帰後に至るまで、日本本土及び諸外国とを結び手だてはほとんどが航路でした。その航路で一番重要だったのが那覇港（現那覇埠頭）です。しかし那覇港は王国時代から中国船・大和船が入りする港とはいえ、船は港内に停泊し、人員・貨物等の積み卸しは解や伝馬船を利用したものでした。

明治期以降、本土とを結ぶ大型汽船の就航に伴い接岸要請が高まり、1907年那覇港築港工事が着手されました。1915年の工事は終了により1500トン級汽船3隻が横付けできるようになり、それまでの不便は解消されましたが、その後の移出入量等の増加により第二期工事が計画されました。1921年、幅員を広げ、水深の増加を図るなど15カ年計画の第二期工事が着手され、4500トン級汽船も接岸できる桟橋が完成しました。

これにともない、1937年大阪商船会社が4700トン級の波上丸、浮島丸を阪神・沖縄航路に就航させ、「沖縄視察団」の募集も始めました。戦前の沖縄観光の本格的な始まりです。

今回の企画展では、港や陸上交通などのインフラ整備、観光客受け入れ体制、観光客が見た戦前の沖縄など、戦前の沖縄観光を中心に展示・紹介します。

期 7月6日(土)～10月2日(水)

費 一般 3000円

期 7月6日(土)～10月2日(水)

期 7月6日(土)～31日(水)

「国宝商家衣裳7月の特別展示」
「牡丹が描かれた紅型衣裳」

開館時間 10時～19時 木曜休館 ☎ 869-5266

那覇市立壺屋焼物博物館イベント情報

川尻洋一追悼展

本年3月に急逝した陶芸家・川尻洋一氏の追悼展を開催します。川尻洋一氏は読谷村でカラナ窯をひらき、器やオブジェを制作していました。彼が残した遺作を展示します。現在進行形の沖縄の陶芸の一端をご覧いただければ幸いです。

日 6月25日(火)～7月15日(月) 場 3階 企画展示室 費 無料

川尻洋一「オブジェ」

現代沖縄陶工展「和田伸政 茶陶展」～茶の湯とやきもの～

和田伸政氏は三重県の生まれ。多摩美術大学で建築を学び、その後3年間をアメリカで過ごし、そこでネイティブアメリカン(アナサジ族)の陶器に触発され陶芸を始めました。帰国後清水日呂志氏のもとで茶陶を学び、2006年から沖縄に移住。本部町山里に登り窯を作り、名護岳山麓の土を使用した作品を制作しています。本展示会では、室町時代中期に「寂」と云う確かな美意識を礎にして始まった茶の湯の世界を表現いたします。(共催：和田伸政)

日 7月27日(土)～8月11日(日) 場 3階 企画展示室 費 無料

和田伸政「南蛮破れ水指」

壺屋焼物博物館

学芸員と展示を見よう～常設展ギャラリートーク～

日 7月21日(日) 午後5時から30分程度 費 常設展の観覧料が必要ですが(市内の小・中・高校生は無料) 申 不要。当日、博物館1階受付前に集合してください。

開館時間 10時～18時(入館は17時半まで) ☎ 862-3761

月曜休館 ※ただし、月曜が祝日の場合は開館 ☎ 862-3762

5/24 市民と協働の豊かなまちづくり!

この日「道路ボランティア協定書調印式」が行われました。今回新たに協定を結んだのは、南西電設株式会社、有限会社長光電気空調設備、株式会社七和、宮城自治会会の4団体で、今回を含め協定を締結した会社・団体は82団体になりました。南西電設の親泊政幸会長は「地域の人から『ありがとう』と声を掛けられ会社も認知されてきました。これからも豊かなまちづくりに貢献していきたい」と抱負をのべました。

5/30 「ごみじゃない、それは1つの資源だよ!」

5月30日の「ごみゼロの日」にちなんで今年も「ごみゼロの日」イベントが、汗も吹き出すほどの強い日差しの中、多くの市民や企業、NPO団体が参加して行われました。今年の「ごみゼロの日キャッチフレーズ」最優秀賞には、中学生の奥平美由さんの作品「ごみじゃない、それは1つの資源だよ」が選ばれ表彰式が行われたほか、参加者全員で国際通り周辺のごみ拾いもしました。

6/2 「復興の未来と生命(いのち)照らす水」

6月1日(土)～7日(金)の全国水道週間に合わせて、「復興の未来と生命(いのち)照らす水」をスローガンに「第55回水道週間 in サンエー那覇メインプレイス」が開催されました。会場では、水道に関する模型展、ビデオ上映、水道相談コーナー、利き水コーナーが設置されたほか、「平成25年度水道ポスターコンクール」の入賞者の表彰式も行われました。

6/15 「地域のつながり育む歴史・文化の発信拠点」

儒学の祖で中国の思想家、孔子をまつる孔子廟(こうしびょう)が、このほど、本市久米の松山公園内に遷座(せんざ)しました。元々は久米にあった孔子廟、先の沖縄戦で焼失し若狭へ移転していましたが、今回69年ぶりに久米の地へ戻ることとなりました。この日、久米三十六姓の子孫でつくる一般社団法人久米崇聖会により、新大成殿「久米至聖廟(くめしせいびょう)」の落成式が、多くの関係者が参加し盛大に行われました。敷地面積400坪もある新大成殿は、隣接する松山公園や福州園に連携した施設として、沖縄の歴史・文化・伝統を再認識する、すばらしい発信拠点になることが期待されます。

▲孔子が祭られている大成殿

▶69年ぶりに久米の地へ、にぎやかな遷座行列

第28回 那覇市ぶんかテンプス館館長 山川厚子さん

協働さん

いっしょに!

国際通りの真ん中にある那覇市ぶんかテンプス館は、文化芸能の発信拠点施設であり、山川厚子さんはその館長を務め、今年で7年目を迎える。「てんぶす館」は、琉球舞踊や組踊、演劇や創作芝居などさまざまな芸能を発信しています。また、イベントを開催するなどして、たくさんの方を呼び、まちのにぎわいを作り出す役割を担っています。私は、商店街組合や観光協会、メディアといった様々な団体と連携を図ってきましたが、より多くの連携を図れることから協働大使を引き受けました。お蔭様で、点と点だったものが線となり、ようやく面となって中心市街地の活性化に貢献できつつあります」と、これまでを振り返りました。

てんぶすは、元気・希望の発信地

芸能のコラボレーションや創作劇など、てんぶすホールだからできる自由な発想の新しい芸能が生まれています。また、東日本大震災後は、お母さん合唱団の提案を受け、てんぶすホールで被災地支援コンサートを毎年実施するなど、市民活動の場づくりのお手伝いもしています」とてんぶす館の役割を説明しました。

また、今年てんぶす前広場に大型ビジョンが設置されることから、新たな情報発信の可能性にも期待を寄せ、「てんぶす館のある場所は、昔那覇ショッピングセンターがあった所で、カルチャー発信地であり、那覇に遊びにきた人が集う場所でした。この場所を活用する方々と協力して、たくさんの方の元気をこれからも発信していきたいです」と、各通りの会館の取り組みを紹介しながら、那覇の中心市街地への愛着を語っていました。

山川厚子さん

“パソコントラブル”対処を学ぼう!

就職、独立、副業などに活かせる技術!

「パソコン整備士養成講座」那覇校・沖縄校

基礎から学べ、初心者も安心
突然のトラブルも自分で解決

「パソコンが動かない!」「エラーメッセージが分らない!」など突然のトラブルで困った経験はありませんか。
創造力開発センターの「パソコン整備士養成講座」22テーマ・6ヶ月間・定員15名では、分かりにくいパソコン用語や本体のしくみ、さまざまなトラブルの対処法、ネットワーク構築やセキュリティなどを基礎から応用まで体系立てて学習します。
わかりやすいカリキュラムとゆつくり丁寧な指導で、パソコン初心者や年配の方も安心して受講できます。
また、同講座は内閣府認証NPO法人パソコン整備士協会認定の資格試験にも対応。就転職に役立つほか、独立開業や副業などに活かれます。
詳しい案内資料を無料送付中。希望の多い講座のため、問い合わせや資料請求はお早めに。

0120(067)0668

■那覇校会場/【隔週日曜】
沖縄産業支援センター
(那覇市小祿)

■沖縄校会場/【隔週土曜】
沖縄商工会議所(沖縄市中央)

〈問い合わせ・資料請求〉
創造力開発センター
福岡市中央区大名2-12-15-4F
http://www.sokaijp.com